

令和元年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価計画表

学校運営計画		総合評価
教育目標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切にし、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。	
教育方針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1 志操と思想を研ぎ、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2 真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3 積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4 人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
生徒の学習意欲の向上、学習習慣の定着に成果をあげ、進路実績も一定の成果をあげた。 しかし、学習に主体的に取り組む姿勢には、まだ課題が残る。将来のキャリアを視野に入れた指導が、継続的に必要である。 また、授業改善のために、より質の高い授業、生徒が主体的に学べる授業を実践するための研究が大切である。 部活動や各種コンクールに真摯に取り組み、成果をあげた。今後も、学習との両立を図るため、バランスのとれた生活時間の配分が必要である。 校内での挨拶は定着しつつある。その一方で、遅刻の総数が、昨年よりも増加した。不注意の遅刻の減少及び通学マナーの向上を図る必要がある。 部活動中の熱中症等への予防に向けた取組を継続していく必要がある。	○ 生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○ 生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○ より質の高い授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○ SSHの第4期指定において設定した新たな研究開発課題に向けた取組を推進する。 ○ 常に生徒の安全確保に努めるとともに、生命を大切にし、健康を保持増進する能力や態度を養う。 ○ 学習と部活動等との両立を推進する。	◇ 本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇ 計画的、組織的な進路指導を展開するとともに、次年度の大学入試改革に備えて、さらに検討を進める。 ◇ 主体的な学習を促すためのガイダンス機能を更に充実させる。 ◇ 第4期2年目のSSH事業を企画・運営し、関係機関と連携しながら事業を推進するとともに、探究活動や授業改善に取り組む。 ◇ 社会のルールやマナー等の規範意識の醸成に努める。 ◇ 部活動や各種コンクールへの参加を推進する。 ◇ 読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇ 学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇ ボランティア活動を推進し、地域で活動する機会を設ける。 ◇ 健康面、精神面での相談体制を充実させる。 ◇ 本校の教育活動についての情報を迅速かつ適切に発信する。 ◇ 熱中症予防に向けた具体的計画に基づき、その取組を展開する。 ◇ グローバルリーダーの育成をめざし、国際交流・留学を推進する。 ◇ ICT機器の整備及びICT機器を活用した授業づくりを推進する。

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策	
教務部	新しい入試制度や2022年度より実施される新学習指導要領に対応できる教育課程の編成を目指す。特に単位制の特色を生かし、主体的に学習に取り組める態度及び修得した知識や技能を幅広く活用する能力を育む教育課程の編成を目指す。	各教科やキャリア・マネジメント部、研究開発部と連携をとりながら、教育課程委員会やSSH推進委員会、教科会議等を通じて各教科や分掌の意見を出し合い、本校の教育目標や教育方針、SSH指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図る。その上で、本校で設置予定の各教科・科目や学校設定科目の内容を吟味し、運用・実践方法を検討しながら教育課程を編成していく。					
	生徒の主体的な学びや探究活動がより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指すとともに、観点別評価の実践を段階的に行う。	教科の枠を越えた授業交流を実施し、互いの授業を観察し研究する。また、各教科で研究課題を設定し、それに基づいた公開授業を行い、教員それぞれの授業力の向上と授業改善を図る。さらに新テストの導入準備も絡めて、生徒の探究活動・課題解決学習の推進を様々な観点からアプローチしていく。加えて、評価についての具体的な方法を実践する。					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
キャリア・マネジメント部	キャリア・リサーチ課	大学入試制度改革に確実に 対応するため、実効性のある具 体策を各教科・学年と連絡を密 にしながらか検討・実施する。	英語外部検定導入に対する対応を英語科と連携して 具体化させ、実行する。記述式問題が導入される教 科の対策についても当該教科との検討をすすめる。 正確な情報の共通理解のため、大学入学共通テスト 導入に関わる最新状況について職員研修を実施する。					
		本校生徒の進路意識や悩み、 学習面の課題を探り、学年・教 科の協力も得ながら対応策の 検討に努める。	進路希望調査、模擬試験結果を分析し、キャリア・ サポート課と連携し、適時研修を行う。 結果分析から得られた課題や傾向を、学年・教科と 共有し、連携して克服策を探る。					
	キャリア・サポート課	生徒が進路に対する意識を 早期から高め、進路実現に向け 主体的・継続的な努力を行うサ ポート体制と方策を一層整備 する。	講演、キャリアホームルーム、大学探訪等を通じて、 生徒の進路に対する意識を早期から高め、進路実現へ の意欲を高める。 行事・取組の事後検証を綿密に行い、より効果的な 取り組みとするため、課題の修正と改善に努める。					
		個々の教員が進路指導の力 量を高め、生徒への充実した進 路指導を実践するための方策 を探る。	進路指導・関連行事の流れについて、早期の資料・ 情報提供に努め、年間を見通した実践計画を立てやす くする。外部研修について情報提供し、積極的な参加 を促す。					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
学校生活部	生徒指導課	生徒個々の規範意識を高め、 基本的生活習慣の確立を図る。	不注意による遅刻を防止するため、指導の充実に努 め、年間の総遅刻数を減少させる。また、校内におけ るルールを遵守させるとともに、明るく、積極的な雰 囲気に満ちた学校づくりに努める。					
		生徒の問題行動を未然に防 ぐとともに、発生時の対応・指 導を適切に行う。	1年生を対象として、「交通安全教室」「スマホ・ 携帯安全教室」及び「薬物乱用防止教室」等を開催し、 現在及び将来にわたって安全な社会生活を送るため の知識を学ばせる。					
	生徒会指導課	自主創造の精神に基づき、生 徒一人一人が学校活動の主役 となり、生き生きとした生活が 送れるようにする。	生徒会（総務委員会）と各種委員会との連携を密に し、各行事における役割を明確にするとともに、活動 の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を 模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成 を図る。					
		地域や他校と連携したボラ ンティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボ ランティア活動を計画し、発展させる。					
	人権教育課	生徒の実態の把握に努めると ともに、グループワークなど を通じて生徒の主体的な活動 を促す。	生徒が作成した人権啓発標語や人権作文を人権H Rにおいて効果的に活用し、アクティブラーニングの 手法を取り入れる。また、新しいテーマ・教材の提供 にも努める。					
		教職員・保護者に校外での研 修会、学習会等への積極的な参 加を呼びかける。	本年3月に「部落差別の解消の推進に関する条例」 が施行されたことを周知した上で、人権教育に関する 研修会や学習会（校内・校外）に多くの教職員・保護 者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
文化 広報部	総務 情報課	育友会と同窓会の活動を支え、保護者等に対して本校の取り組みへの理解を深めるよう努める。	学校内外の各部署との連携を密にし、育友会・同窓会の諸活動を活発に行う。また、学校新聞やホームページ等、様々な手段を通して広く本校教育の取り組みを保護者や地域の方々、中学生等に伝えていく。					
		校務系端末、教育系端末を教育活動に生かせるよう整備し、安定したネットワーク運営を行う。また、ホームページ等を活用し、広報活動を充実させる。	県と連携をとりながら教員用新端末の安定した運営を目指すとともに、従来の生徒用端末についても問題に迅速に対応できるよう努める。また、新ホームページの運営においても作成、更新作業が迅速かつ活発に行われるよう、各担当部署との連携を密にする。					
	文化 図書課	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実行する。	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を実施する。					
		生徒たちが自分の好きな本について語る、ビブリオバトルを実施する。	文化講座、探求系授業、「アスペン古典セミナー」、「ゲーテの会」などとも関連させながら、自由な発表の場を作り上げる。					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
保健 安全部	保健 体育課	生徒が健康診断や身体測定、体力テスト等の結果を踏まえて自主的に心身の健康を保持増進できるような能力や態度を育成する。 引き続き熱中症事故0を達成する。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。常に最新の情報を取り入れながら熱中症予防計画を策定し、学校全体で確実に取組を進めていく。					
		全体及び個々の生徒について体力的な課題を明確にし、その克服に向けて自主的に体力トレーニングを行えるよう指導する。	体育の授業を中心に保健や体育理論の内容とも関連付けながら、生徒が自主的・積極的に体力向上を図れるよう指導を充実させる。特に、運動が苦手な生徒に対する指導を工夫する。					
	教育 相談課	生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学年・学校全体で協力して生徒を見守り、寄り添えるようにする。	生徒への対応、支援を迅速かつ的確に行えるように担当教員・学年と教育相談課が連携する。特に、不登校傾向を早期に把握できるように、日頃から欠席や遅刻の状況を確認する。					
		教育相談の専門機関を積極的に活用して、生徒支援と教職員のカウンセリングマインドの向上に活かす。	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーへの相談・連携を密にして適切な助言を仰ぐ。					
	環境 整備課	移転に伴い生じる環境面での問題点を解消できるように努力する。	校舎内外の状況把握に努め、期間を限定せずに生徒や教職員の要望に応える。					
		HR教室の場所が年度内に変わるクラスもある中、1年間を通して防災意識の向上に努める。	仮設校舎の工事日程や状況を踏まえて避難経路図を練り直し、シェイクアウト訓練と火災訓練を実施する。					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
研究 開発部	SSH 事業 推進課	第4期SSH事業の研究開発課題として、3年間を通して主体的に探究し、創造する力を系統的に育む教育課程を開発・実践する。また、将来のグローバルリーダーに相応しい国際性を育成する。	主体的な探究活動において、多角的・複合的な視点で事象をとらえ、徹底的に課題と向き合い考え抜くことにより、創造する力を育成する。SSP基礎科目の見直しと、教科・科目の枠にとられない学校設定科目(SSP探究、総合探究、理数探究、Explore subjects)を実施し、ルーブリック評価法の確立を進める。3学年に渡るSSH関連教科の接続について研究する。			
		国際社会の中で活躍するために必要な資質・能力を育成するために、科学英語講座やシンガポール海外研修等の充実を図り、教員評価と生徒アンケート等を基に効果を検証する。				
	重点枠事業として、県全体の理数系探究活動の活性化を図るとともに、地域や学校に貢献し、活躍できる人材を育成する。	連携校のネットワークをさらに充実させ、各事業をより効果的なものにしていく。また、成果の普及と地域への貢献を目指した地域人材育成のため、連携校生徒を含めた「生徒実行委員会」の活動と、「理数科教員指導方法研究会」を充実させる。				
	研究 企画課	情報活用能力を高め、情報社会の進展に対応した教育を推進する。	ICTを活用した授業の実施状況を把握し、その授業の促進を喚起する。			
広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバル人材を育成する。		イギリスでの短期語学研修プログラムを企画し、長期休業中に実施する。 要請があれば、海外交流団体を受け入れ、本校生徒との交流を図る。				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚をもたせる。	生徒が自らの役割を自覚し、集団の一人として責任を持って、高校生として自律した行動をとれるようにさせる。				
		理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。遅刻・欠席の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。				
		自ら進んで行う挨拶を習慣づけ、明るい中にもけじめのある落ち着いた雰囲気学習環境を作らせる。				
	将来の目標を設定し、その実現に向けて、授業を大切に学習の向上を目指す。	予習・復習の習慣を身につけ授業を大切にすることで、自分の学習スタイルを確立させる。定期考査や模擬試験等を積極的に活用し、学習方法を点検させる。				
		キャリア・マネジメント部と連携し、生徒が将来の目標を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう、キャリア学習HRを計画・展開する。				
	生徒の学校生活をより充実したものにするべく、各家庭との協力関係を構築する。	懇談等の機会を活用し、日常の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。また、生徒の様子の変化に気づいたときは、早い段階で保護者と連絡を取り合い、各分掌、スクールカウンセラーとも連携しながら適切な指導を行う。				
学年団として意思の疎通を図り、まとまりのある教員集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、学校全体の組織とも連携し、情報を共有する。					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第2学年	基本的な生活習慣を身につけ、けじめのある生活態度を身につけさせる。	怠惰等による無断欠席は1回でも厳しく指導し、怠惰等による遅刻は、5回、10回を基準に厳しく訓戒する。 欠席や遅刻に何らかの精神的事情がある場合は、学校カウンセラーと連携する。 5分前行動やスマートフォンの利用マナーを徹底させる。				
	将来の目標を具体的に設定させ、持てる能力を発揮できる進路選択をさせる。	機会があるごとに個人面談を行い、適切な進路選択ができるよう指導する。 キャリア部と連携をとり、適切な時期に効果的なホームルーム行事を計画・実行する。				
	情報を共有し、学年運営を円滑にする。	学年会議で生徒の情報を共有し、必要があれば教科分掌、委員会とも連携する。				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第3学年	最終学年として、充実した高校生活を送らせる。	基本的な生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。 学校行事に積極的に取り組ませる。部活動についても、悔いの残らないよう最後までやり遂げさせる。				
	進路実現に向けて、主体的に取り組ませる。	各自の進路実現に向けての意識をしっかりと持たせる。予習・復習を通して基礎・基本の習得を徹底させ、応用力の礎を築かせる。また、模試を十分に活用させ、意欲を持って学習に取り組ませ、実力の伸長を図らせる。				
	教師間や保護者との連携を図り、生徒への適切な対応を行う。	日々の生徒の様子について把握し、必要に応じて保護者と情報を共有する。 生徒の変化に気づいた場合は、早期に教師間で連携を図り、対処する。また、保護者との連絡を密に取りながら、適切に対応する。				